

ニュース

【開発】茨城で327億円を投資、GLP

2022.12.28

日本GLP（本社：港区）は、茨城県西部の境町にGLP境古河（さかいこが）I・IIを建設する。2棟の物流施設は隣接して建設。全体竣工は2026年10月を予定している。投資総額は約327億円だ。



GLP境古河I・II（資料：日本GLP）
[画像のクリックで拡大表示]

建設予定地は、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の境古河インターチェンジ（IC）から約400m。バイパスの新4号国道を通じて東京や東北・宇都宮方面へのアクセスも容易な立地だ。

GLP境古河Iは地上4階建て、延べ床面積約8万5000m²の規模のマルチテナント型となる。ランプウエーにより3階まで直接乗り入れが可能。約870坪からの小割り貸しに対応する。2023年10月に着工し、2025年4月の竣工を予定している。

GLP境古河IIは地上4階建て、延べ床面積約7万9000m²の規模。こちらもランプウエーにより3階まで直接乗り入れが可能。BTS（ビルド・トゥ・スーツ）、マルチテナントいずれの用途にも対応する。マルチテナントの場合には、約740坪からの小割り貸しとなる。着工は2025年4月で、2026年10月の竣工を予定する。

土地面積は約8万1000m²。日本GLPはこの土地を2022年6月、解体や土壌汚染対策などを手がける大洋（本社：水戸市）から取得していた。大洋は全国各地で開発用地の仕入れを進めており、デベロッパーなどへ順次売却していく方針。

境古河IC周辺では物流団地の開発が進んでいる。2022年10月には大和ハウス工業のDPL境古河（延べ床面積約12万7000m²）が着工した。

[開発の概要]

開発名：GLP境古河I

所在地：茨城県境町蛇池748ほか（地番）

最寄りIC：首都圏中央連絡自動車道境古河IC約400m

面積：土地約4万2000m²、延べ床約8万5000m²

構造：S造

階数（地上／地下）：4／0

用途：物流施設

用途地域：市街化調整区域

容積率：200%（法定）

事業主：GLP圏央境古河ロジスティック特定目的会社（GLPのSPC）

工期：2023年10月～2025年4月

開発名：GLP境古河II

所在地：茨城県境町猿山48-2ほか（地番）

最寄りIC：首都圏中央連絡自動車道境古河IC約400m

面積：土地約3万9000m²、延べ床約7万9000m²

構造：S造

階数（地上／地下）：4／0

用途：物流施設

用途地域：市街化調整区域

容積率：200%（法定）

事業主：GLP圏中央境古河ロジスティック特定目的会社（GLPのSPC）

工期：2025年4月～2026年10月

[売買の概要]

名称：GLP境古河I・II予定地

買い主：GLP圏中央境古河ロジスティック特定目的会社（GLPのSPC）

売り主：大洋

所在地：茨城県境町蛇池748ほか（地番）

最寄りIC：首都圏中央連絡自動車道境古河IC約400m

面積：土地約8万1000m²

用途地域：市街化調整区域

容積率：200%（法定）

取引時期：2022年6月（引渡）

取引形態：所有権

地図を非表示にする

